

一般社団法人広島県中小企業診断協会 会報誌

診断ひろしま

2025.1

令和7年1月

新年号
WINTER

vol.
92

巻頭のことば（新年のご挨拶）

新入会員紹介／研究会・委員会活動報告

TOPICS

中小企業診断士の日 記念セミナー報告
新年座談会「カープの知的資産分析」



生成 AI で作成した画像です

経営コンサルタント唯一の国家資格「中小企業診断士」が
広島の中企業の振興と地域経済の健全な発展のお手伝いをいたします



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

www.hiro-smeca.jp

CONTENTS

診断ひろしま 2025 年新年号

目次



一般社団法人
広島県中小企業診断協会



表紙写真 (AI 画像) :

「雪が積もる厳島神社の鳥居」

作成 : 小寺 崇之

今回の写真は、生成 AI を利用して作成した画像です。なかなか雪が積もった宮島の大鳥居を撮影する機会がないので、生成 AI で作ってみました。実際の大鳥居との違いや違和感を探してみるのも面白いと思います。

巻頭のことば

新年のご挨拶

一般社団法人広島県中小企業診断士協会として
新たな一歩を踏み出します

会長 井上 明雄 3

新年のご挨拶 さらに価値の拡大に努めます

副会長 大村 貞之 4

新年のご挨拶

AI との共存共栄を図れる診断士を目指して

副会長 小寺 崇之 5

TOPICS



中小企業診断士の日
記念セミナー
「パーパスは中小企業の
未来を描く！！」

会長 井上 明雄 6

新年座談会

「カープの知的資産分析」
知的資産経営研究会 × カープを
科学する研究会 コラボ研究成果



森島 重樹、綿谷 伸二

伊藤 圭介、塩田 睦大 8

診断士コミュニティ

- 随筆・見聞録 「二郎というカタルシス」 伊藤 圭介 14
- 書評 「多様性の科学 画一的で凋落する組織、複数の視点で問題を解決する組織」 藤掛 真行 16
- リレー訪問記 益野 実 藤川 裕志 18
- おすすめのお店・企業紹介 vol.6 株式会社 片岡商店 土井 誠 20
- 新入会員紹介 掲載5名 (鬼村 美恵子、土井 誠、中原 良成、中村 清悟、三浦 英俊) 22

活動計画 / 報告

研究会

リスクマネジメント研究会	25
海外展開支援研究会	26
ISO 研究会	27
企業内診断士の会	28
知的資産経営研究会	29
資金繰り表研究会	30

委員会

総務委員会	31
広報委員会	32
試験委員会	33
診断実務委員会	34
更新研修委員会	35
会員研修委員会	36
グループ研究委員会	37

年間主要行事日程 38

事務局からの
お知らせ 38

編集後記
協会会員数 裏表紙

一般社団法人広島県中小企業診断士協会 として新たな一歩を踏み出します



会長 井上 明雄

新年、あけましておめでとうございます。

会員および中小企業支援機関の皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、旧年中は一般社団法人広島県中小企業診断協会の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2024年10月、47都道府県協会の連合会である「一般社団法人中小企業診断協会」は、1954年の設立から70周年を迎えました。

この70周年を機に、2024年10月1日より、連合会の組織名称を「一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会（略称：日診連／英文名：Japan Federation of Certified Management Consultants' Associations、英文略称 JF-CMCA）」に変更しました。

名称変更の目的は、「連合会の役割と使命を明確にし、中小企業診断士という専門家の団体である旨を内外にわかりやすく伝えることにあります」（一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会会長 松枝 憲司）。

広島県中小企業診断協会として、連合会の組織名称変更において「中小企業診断協会」を「中小企業診断士協会」とされたことを転機と捉えています。

会長に就任して以降、関連士業団体や中小企業支援機関の方々から「中小企業診断士協会」と言われる度に、「広島県中小企業診断協会です」と説明したり訂正を求めたりする中で、もどかしい思いを感じていました。

広島県中小企業診断協会においても、中小企

業診断士という専門家の団体である旨を内外にわかりやすく伝え、中小企業診断士の知名度およびブランディングの向上のため、「広島県中小企業診断士協会」への組織名称変更に向けて準備を進めて参ります。

11月5日に開催された創立70周年記念式典において、来賓の山下 隆一 中小企業庁長官は「日本経済は30年間のデフレから脱却できる局面にある。中小企業は心に染みついたデフレ思考を払拭するチャレンジが必要。中小企業を支援する中小企業診断士の役割は大きい」と鼓舞され、宮川 正 中小企業基盤整備機構理事長からは「中小企業診断士への期待は高まっている。積極的に中小企業の課題解決に取り組んでもらいたい」との激励を受けました。中小企業診断士の一人として、中小企業支援の役割と責任の重さを改めて強く感じているところです。

広島県中小企業診断協会を改め広島県中小企業診断士協会は「中小企業経営に寄り添い、共に考え、共に歩み、より良い方向に導くパートナーとして、中小企業の成長・発展、地域経済の振興に貢献する」と掲げた使命の下、日本中小企業診断士協会連合会、中小企業支援機関、関連士業団体等との連携を強化し、中小企業と地域経済の発展・振興に尽力して参ります。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸、地域経済の益々の発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶 さらなる価値の拡大に努めます



副会長 大村 貞之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員および関係機関の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当診断協会の様々な行事にご協力頂きまして、深く感謝申し上げます。

さて、中小企業の経営環境は厳しさを増しています。原材料の高騰・賃上げ・電気代や物流費の上昇等々、激変する外部環境への的確な対応が必要となっています。ビジネスモデルの再構築を迫られている企業も多くあります。

また、昨年秋頃から、短期プライムレートを引上げる金融機関が多くありました。およそ17年ぶりという事で、これまでは低金利が当たり前で、余剰に融資を受けていてもあまり負担感は無かった時代から、金利負担を意識する時代へ、融資に対する考え方も変わっていくと予想されます。

中小企業診断士は、このような環境変化に立ち向かう企業に寄り添い、的確なサポートを行うことが大切です。その企業の価値が何かを再確認し、今後その価値をどのように発展させていくのかの方向付けをしながら支援することが重要となります。

私の持論ですが、企業が繁栄するか衰退するかは、その企業に「価値を創出できる力があるかどうか」と考えています。価値を創出できる企業は繁栄し、できない場合は残念ながら衰退してしまう。ここが、重大な分岐点だと考えます。

19年前、私がサラリーマンから中小企業診断

士として独立する時もこの考え方が決め手となりました。娘がまだ小学校に入る前の大切な時期でしたので、悩みに悩みましたが、「価値が出せれば大丈夫だ」と自分に言い聞かせて独立への一歩を踏み出しました。

企業診断の実践においても、この考え方を重要視しています。その企業が創出している価値は何なのか、そのポイントを早めに見出し、その価値を拡大させるための方向性を経営者と一緒に考えていきます。そこからアクションプランを設定し、事業計画を完成させていきます。

事業計画完成後は、その計画を成就させるべく、企業はアクションプランの実行に移ります。多くの場合、私も伴走支援をさせて頂いています。ここでも、その企業の価値がブレないように支援していきます。

昨年、私の価値について再度考えた結果、もっと企業のアクションプランの内容が深くなるように、その実現可能性が高くなるように、私自身が実践する必要があると考えました。そこでまずは、販売部門・情報部門の実践的な取組みです。私自身が、販売サイトのあるホームページを立ち上げる事にしました。実際に商品を買って、実際の販促を経験する事で、より深い助言ができるはずで、これにより、自分の価値を高めたいと考えています。今後は楽しみです。

最後に、会員の皆様並びに関係機関の皆様の、ご多幸とご健康・ご発展を心から祈念しまして、新年の挨拶とさせて頂きます。

新年のご挨拶

AI との共存共栄を図れる診断士を目指して



副会長 小寺 崇之

新年明けましておめでとうございます。会員および各関係機関の皆様におかれましては、輝かしい新年の幕開けをお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は年明け直後の能登半島地震に始まり年間を通して地震や大雨などの自然災害に見舞われることの多い一年でした。また、経済面においても円安の進行、インフレの加速、そして地政学リスクの高まりなど、企業を取り巻く環境はますます複雑さを増しています。世界に目を向けても、気候変動による自然災害の頻発や生物多様性の損失など地球規模の課題も深刻化し、サステナビリティへの関心もかつてないほど高まっています。

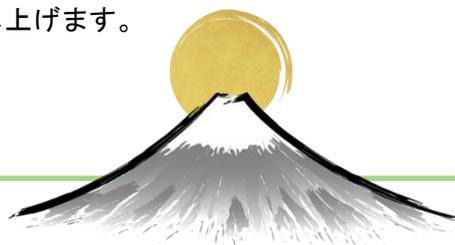
こうした激動の時代において特にAIの急速な進展はビジネスのあり方を根底から変えつつあります。生成AIをはじめとする新たなテクノロジーは、経営戦略の策定、業務効率化、顧客体験の向上など、様々な分野で革新的な可能性を秘めています。AIの活用はもはや選択肢ではなく、企業が生き残るための必須条件となりつつあります。最近は私自身も業務上の資料作成や説明会などで話す内容の枠組み作成などに活用しています。また今執筆しているこの原稿の草案にも生成AIを活用しています。

中小企業診断士は企業の経営に関する診断を行い、改善策を提案する専門家です。経営戦略の立案、組織改革、財務分析など、幅広い分野の知識と経験が求められます。AIは、これらの業務の一部を代替できる可能性を秘めています。例

えば、大量のデータを迅速に分析し、経営課題を特定することで課題解決のための手段を導き出すことはもとより、過去のデータに基づいて将来の売上を予測することも可能です。そのため、私たち中小企業診断士が書籍やネット検索すれば出てくる程度の教科書どおりの経営分析や課題抽出、解決策の提案や経営計画の作成をしているだけでは、その存在意義はAIに代替されてしまいます。こうした状況を回避するために中小企業診断士には、AIが苦手とする領域での能力を高めていく事が必要だと考えます。AIは標準的なモデルに基づいて最適解を導き出すことは得意とされていますが、中小企業の複雑で個別具体的な状況に合わせた最適解を導き出すためには、人間ならではの柔軟な対応が不可欠です。また人として企業に寄り添い、安心感を与えると同時に経営者のモチベーションを高めることができる人間力も大切です。

中小企業診断士の未来はAIとの共存共栄にあると言えるでしょう。AIの発展は中小企業診断士の仕事に変化をもたらしますが、AIをツールとして活用することで同時に新たな可能性も開けてきます。これを踏まえ、今年が私たち中小企業診断士の各自と県協会が新たな価値を創造していくきっかけとなる一年になることを願っています。

会員および各関係機関の皆様には、引き続き協会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



中小企業診断士の日 記念セミナー 「パーパスは中小企業の未来を描く！！」

会長 井上 明雄

今年度の「中小企業診断士の日」のイベントは、11月1日（金）RCC文化センターにて、講師にやまぐち総合研究所有限会社 代表取締役所長中村 伸一氏をお招きし、「パーパスは中小企業の未来を描く！！」と題したセミナーを開催した。



やまぐち総合研究所有限会社
代表取締役所長 中村 伸一氏

「パーパス経営」とは、「自社が何のために存在し、社会でどのような役割を果たしていくか」を軸に企業活動を行い、社会に貢献することを目指す経営のこと。

企業の目的や存在意義を意味するパーパス（Purpose）に基軸を置いた「パーパス経営」が注目されているが、中小企業にはほとんど浸透していないのが現状である。

セミナーでは、「パーパスとは何か」「パーパスが求められる背景」「パーパス経営の事例」等の学びを通して、中小企業が未来に向けて取り組むべき「パーパス経営」に対する理解を深めた。また、講義の中では、知的資産経営、デザイン経営、サステイナブル経営、人的資産経営等との関係性についてもご教示いただいた。

「パーパス経営」の事例紹介では、会場にお越しいただいていたシンワ株式会社 代表取締役 太原 真弘氏に急遽お願いし、自社のパーパス（事業理念）設定の経緯、社内への浸透、設定の効果などについてお話しいただいた。

「社名の変更に合わせて、新たな事業理念を検討していた時に、中小企業診断士から提案されたパーパス“ひとときの こちよさを すべてのひとに”の言葉はすぐに腹落ちした。感動した」「従業員も、喜んで受け入れてくれた」と代表はもちろん、従業員の共感を得ていること。また、「新商品開発は、この事業理念に沿ったものであれば自由な発想で進めてほしい」と伝えられており、パーパスが当社の行動指針にもなって浸透している様子などをお聞きすることができた。



パーパス経営が注目されている背景として、SDGs・カーボンニュートラル・GXなどサステイナブル経営の取り組み、VUCA（将来予測が困難）の時代、事業再構築（新規事業・DX）、人的資本の重要性（人的資本経営、リスクリング）、共創（共創価値、他社とのオープンイノベーション）



	理念	パーパス
定義	信念や価値観	存在意義（ありたい姿）
決定	経営者（+経営幹部）	経営者（+経営幹部）
作成	経営者（+経営幹部）	ステークホルダー
認知	会社概要（パンフ・ホームページ）に記載	会社概要に記載、SNS配信、動画配信、営業プロモーション、
活用効果	エンゲージメントの向上、求人・就活	エンゲージメントの向上、求人・就活、アトツギ・事業承継、M&A、起業・スタートアップ社員教育

などの社会的な要請の高まり、企業経営者や生活者の意識の変化がある。

中村氏は、「パーパス経営と人的資本経営は、企業が持続可能な価値を創造し、長期的な成長を実現するための重要な要素である。パーパスが従業員に共感と呼び、人的資本を活かすことで、企業は社会的な意義とビジネスの成功を両立させることが可能となる。この両者を統合することで、従業員のモチベーション向上や持続可能な成長が期待される」と言う。

その面で、「シンワ株式会社の事業理念は、従業員の共感を得るとともに、行動指針として新商品開発の推進と成長を導くものとなっている。また、取引先などのステークホルダーにも伝わりやすく、共感を得やすい言葉で表現されている」と評価された。



会場の中小企業診断士から、「中小企業にパーパスを勧める時の切り口はどのように？」との質問があった。

中村氏からは、「パーパスを知らない経営者が多いため“経営理念”は明確か、求人の応募状況はどうかを確認する。最近では、学校でパーパスについて教えており、パーパスへの共感が企業を選択する要素となってきている。パーパスを明確にすることで応募が増えることを伝え、その重要性を認識してもらうのが良い」と、パーパス採用の取り組みに対する示唆を受けた。

我々中小企業診断士は、企業の社会に対する提供価値を明確に示すサポートを通して、成長・発展に貢献する役割を担っていることを改めて感じたセミナーであった。



最後に、ご多忙の中、セミナー講師を務めて



いただいた中村 伸一様、急なコメントの依頼に快く応えていただいた 太原 真弘様に心より感謝を申し上げます。



「カープの知的資産分析」



知的資産経営研究会 × カープを科学する研究会
コラボ研究成果 座談会



対談参加者

知的資産経営研究会



研究会代表
森島 重樹



会員
綿谷 伸二



カープを科学する研究会



研究会代表
伊藤 圭介



会員
塩田 睦大



司会
広報委員
本庄 恭子

司会 令和7年新年号の新春対談は、9月7日に実施されたグループ研究会研究成果発表会で大変好評を博した「カープの知的資産分析」を2研究会合同で発表された「知的資産経営研究会」「カープを科学する研究会」の会員の方にお越しいただきました。

それぞれの自己紹介（中小企業診断士になられた動機、研究会に入られた経緯、研究会に関する思いなど）

司会 それでは皆様、よろしくお願いたします。まずは、簡単な自己紹介として、中小企業診断士になられた動機や研究会に入られた経緯、研究会に関する思いなどをお聞かせください。

森島 知的資産経営研究会代表の森島です。私は6年前まで金融機関に在籍し中小小売業に6年出向していました。6年前他の会社への出向を打診されたとき1社だけでなく地元の多くの



グループ
研究成果
発表会

好評だった
合同発表の様子



企業のお役に立ちたいと思い、金融機関を退職し日本生産性本部で診断士研修を受け資格を取得し診断協会に入会いたしました。研究会は「事業承継研究会」「カープを科学する研究会」「知的資産経営研究会」に所属しており、3研究会での研究会活動を仲間と有意義にしております。

綿谷 62歳で中小企業診断士になった遅咲きのルーキーです。診断士になろうと思ったきっかけは、長年培ってきた経営者としての知識や経験を生かし、地元企業のために経営者目線に立った企業支援をしたいと思ったことです。実務

補習中に知的資産経営と出会い、目から鱗が落ちるほどの衝撃を受けたことから、森島先生、牧野先生と共に知的資産経営研究会を立ち上げました。今では知的資産経営を中心とした経営支援を行っています。

伊藤 伊藤です。2017年に中小企業診断士に登録しました。中小企業診断士になろうとしたきっかけは、かいつまんで言うと今から10年ほど前に広島にリターンしたときに何か1つ資格を取ってみようと思ったのがきっかけですかね。

登録後はすぐに協会に登録し、今では5つの研究会に入っています。入りすぎです。研究会への思いですが、やはり他の協会員との人間関係が構築できやすいのが良い点です。よく「ナナメの人間関係」って言うんですけど、タテでもないヨコでもない関係の構築、研究会の魅力はそこにあると思います。

塩田 東京生まれの東京育ち、生まれる前からカープファンの塩田睦大です。2011年にドラフト1位で広島にカープ移住しました。現在は日常にカープのある生活を楽しみながら、中小企業診断士、不動産鑑定士、FP（ファイナンシャルプランナー）等をしています。中小企業診断士は、大学が経営学部出身で、他資格取得による一部試験科目の免除もあり、取得しました。カープを科学する研究会には紹介によりドラフト外で途中入団しましたが、毎日カープを科学的に分析しています。

知的資産経営研究会の紹介と、合同研究の経緯について

司会 ではまず、知的資産経営研究会代表の森島先生に、研究会のご紹介と、今回カープを科学する研究会と合同で研究を行われた経緯と狙いをお伺いしたいと思います。

森島 知的資産経営研究会ですが、3年前に仲間と立ち上げました。私と知的資産経営の出会い、6年前に金融機関の先輩から大阪の知的資産系研究会の森下先生の活動を紹介されてからで

す。目から鱗感覚でした。知的資産経営とはいわゆる非財務部門の見えざる資産に着目し事業者そのものが自分の事業の持ち味に気付き自生できる手法で、当研究会の活動目的としては、知的資産経営を習得し、中小企業支援に活用することで、地域経済の発展に貢献することです。今回カープを科学する研究会と合同研究する経緯は2023年12月17日のカープを科学する研究会の忘年会で他研究会とも交流を図りたいとの話が持ち上がり、私が所属する「事業承継研究会」「知的資産経営研究会」にも連絡し、2024年1月27日に3研究会合同研究会を開催、その流れで他研究会と合同研究しようということで本事業がスタートしました。

カープを科学する研究会の紹介と、合同研究の経緯について

司会 続いて、カープを科学する研究会代表の伊藤先生に、研究会のご紹介と、今回の知的資産経営研究会との合同研究で感じられたメリットや手応えなどをお伺いしたいと思います。

伊藤 当研究会は、まずは名前のとおり、カープが大好きな人たちの集まりです。基本的なコンセプトとしては、カープという球団・チームを1つの組織ととらえて研究し、そこで得られるエッセンスをどう中小企業の経営に落とし込めるか、だと個人的には考えています。ご存じのようにカープはNPB12球団の中で唯一親会社を持たない球団で、他球団との財務基盤の比較を考えるとNPBの中の中小企業という位置づけになるかと思います。それゆえ、カープの取組や特徴というものが中小企業経営に活かせるのではないかと、そんな研究活動をしております。

今回の知的資産経営研究会のコラボでは、その強みや持ち味、すなわち知的資産というものを、具体的な顧客提供価値の掘り出しやそのストーリー構築といったアプローチから明確に割り出ししていく、そのフレームワークが我々の期待するところにフィットしたのではないかとということで、今後の活動の方向性を見出したきっかけになったと思います。

合同研究成果発表について

司会 では、今回の発表会で中心的な活躍をされた綿谷先生に、発表会の内容についてご紹介頂ければと思います。

綿谷 知的資産経営の手法を使って、カープを好きになった理由からカープの顧客提供価値を探り、その価値を実現するカープの知的資産を掘り出してストーリー化しました。今回の対象は会社ではなく「カープの存在」そのものです。

顧客提供価値とは、言い換えれば「顧客に選ばれている理由」のことです。カープは戦後間もない1949年に創設され、当時の広島市民にとって「カープの活躍が生きていくための元気の源」でした。この「生きる力」を当時のカープは提供していたと言えます。その後カープファンは全国に広がり、ファン層も価値観も多様化した今では、カープを応援して楽しい、ワクワクする。カープが勝つと嬉しい、笑顔になる。また、カープファンであることに特別感がある、見栄を張れるなど「カープからもらっている価値」も多様化しています。



次に、カープがそれらの価値を提供する要因となる知的資産を「カープの沿革」から掘り出しました。そのために、まずは球団が創設され

た年から最近に至るまでの出来事を年表にまとめました。企業の沿革を辿っていくと、ターニングポイントとなる出来事の背景に知的資産が隠れています。集まったメンバーで年表を見ながら、ターニングポイントとなる出来事を見つけていきました。

最初に掘り出したのは、経営理念、方針などの理念資産です。カープは広島戦後復興の象徴であり、これは75年経った今でも褪せることのないカープの存在意義です。また、球団創設時から「特定の親会社を持たない」、「地域密着」、

「若手を育てて勝つ」という今も変わらないカープの理念も改めて認識しました。

次に抽出したのはカープの関係資産です。まず特筆すべきは、カープファンとの密接な関わりです。球団設立後まもなくして資金難により球団の身売り話が出た時には、広島市民の皆さんは「おらがチームを潰すな」という熱い想いで後援会を作って応援し、樽募金でお金を集めて球団を支えました。さらに、カープファンがトラペット部隊、ジェット風船、選手別応援歌やスクワット応援など「カープ発」という独自の応援スタイルで選手を支えてきたことも改めて整理できました。

また、地域社会との密接なつながりも重要な関係資産です。広島県をはじめ広島市や福山市など県内の各市が出資して球団設立に関わったことが「市民球団」の所以です。今ではカープ選手がラッピングされたJR電車や市内電車が走り、広島県内のコンビニやJR構内の売店でもカープグッズを買うことができます。また、広島県内の銀行やデパート、市役所や町役場ではカープのユニフォームを着て働いている所もあります。このように、地域ぐるみで応援されているのもカープの特色です。

知的資産とは違いますが、親会社を持たないカープを資金面で支えたのが、球場とグッズ販売です。広島総合球場から広島市民球場に変わって観客動員数が増加し、マツダスタジアムになって、さらに入場料収入が増えました。また、初優勝を機に「赤」を基調としたグッズを次々と開発し、今ではグッズ販売は売上高の3割を占めるほどです。そして、新しい球場と魅力的なグッズは、カープ女子や家族連れなど新規ファン層獲得にも貢献しました。

最後に、掘り出した知的資産を因果関係で繋げてストーリー化しました。カープが活躍すると、入場料収入増加により球団経営が安定し、ファンは応援する楽しさで笑顔になり、地元の飲食店などの活性化で地域経済が元気になります。そして、カープが益々活躍するという好循環になっています。つまり、カープが活躍することで、球団、カープファン、地域社会みんなが幸せになる「三方よし」を実現していると言えます。

ブという共通の話題で老若男女を問わずコミュニケーションがとれるのも「広島ならではの」ことです。

このようなカープファンの存在やカープファンがカープを想う気持ちは、カープにとってはまさに知的資産そのものであると思います。カープにはこの想いに応えていただき、今季こそ優勝・日本一を達成し、広島の皆様のご家庭も円満にしてほしいです。

今後の活動計画について (カープを科学する研究会)

司会 まとめとして、カープを科学する研究会代表の伊藤先生に今後の研究会の活動計画等をお伺いしたいと思います。

伊藤 特に広島はスポーツが盛んな地域であり、サンフレッチェ広島や広島ドラゴンフライズといったプロチームに加え、多くのスポーツチームがあります。スポーツというコンテンツは地域経済の活性化につながると思っております。近年「スマート・ベニュー」という、スポーツを核とした街づくりを行うといったコンセプトも現れましたが、広島はその代表モデルになり得ると思っております。特にカープはその設立経緯が特殊な事情もあるとはいえ、そのパイオニアという位置づけだと思っております。カープの魅力を掘り起こすということは、スポーツが地域経済へもたらす可能性を探るということでもあり、ひいてはそれを活用することで、地域の中小企業の事業活動にもいい影響が及ぶのではないかと考えております。

その他、我々の活動に興味を持っておられる学校さんもいらっしゃいます。教育の場においても郷土の資産に関するフィールドワークのようなことをカリキュラムに設定しようとしているところもあるようで、そういった活動に対しても何かしらの貢献ができればと考えております。



今後の活動計画について (知的資産経営研究会)

司会 最後に、知的資産経営研究会代表の森島先生に、今後の研究会の活動計画等をお聞かせ頂ければと思います。

森島 知的資産経営は広島県では金融機関、商工会との連携も十分でなく事業者・支援者への認知も十分とは言えません。当研究会の知的資産経営研究会では、今回のカープを科学する研究会とのコラボも知的資産経営を認知してもらおう一環だと考えております。今後は事業継承研究会とのコラボも検討したいです。



知的資産経営研究会は、全国では東北、東京、神奈川、埼玉、千葉、愛知・岐阜、滋賀、京都、大阪、佐賀といった地区で活動されています。毎年11月には、知的資産経営研究会の全国サミットが開催されていますが、2025年は広島での開催が予定されています。

お互いの活動成果の発表や他研究会との交流等が期待されています。わが知的資産経営研究会ひろしまとしてもこの全国サミットを成功させたいと考えております。今後サミットの多方面への告知や協力機関との連携等が必要になってきます。広島県中小企業診断協会の皆様にもいろいろな面でご支援お願いできればと考えております。

司会 改めてカープや広島、知的資産について学ぶことができ、新しい気付きをいただいた対談でした。

先生方、本日はお忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。今後益々のご活躍を祈念いたします。

本誌をお読みになられている皆様におかれましても、今年がより良い一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

中小企業経営者・中小企業支援機関ご担当者さまへ

経営改善・資金繰り改善・補助金活用・
販売促進・生産性改善・事業承継・IT/DX

経営のお困りごとは 中小企業診断士へ

このままではいけない…
と思っている方
一度ご相談ください

私達は中小企業に役立つ各種専門分野を
日々研究し続けています！

ISO 研究会

建設業 研究会

資金繰り表 研究会

原価管理 研究会

事業承継 研究会

企業再生実践 研究会

地域活性化 研究会

「グループ研究会」へのご依頼・ご相談承り中！

経営コンサルタント唯一の国家資格「中小企業診断士」が、研究分野の専門性を活かした、経営診断・助言・セミナー・研修会開催などを実施します。
ホームページから、お気軽にお問い合わせください。

当協会のグループ研究会では、研究分野の専門性を活かした経営の診断や助言をはじめ、セミナー・研修会等を随時実施しております。

協会ホームページ上にグループ研究会へ直接連絡可能な「ご依頼・ご相談窓口」を設置しておりますので、お気軽にお問い合わせください。



広島県中小企業診断協会ホームページ www.hiro-smeca.jp



経営者・支援機関さまへ

グループ研究会へのご依頼・ご相談
研究分野の専門性を活かした
支援・セミナー等を実施します

各研究会の研究内容・支援内容についてはこちらをクリック！



(注) 報酬その他要件は、研究会「ご依頼・ご相談窓口」へ直接メールでお問合せください。なお、ご依頼・ご相談にかかる一切の行為について、一般社団法人広島県中小企業診断協会は、何ら責任を負うものではありませんので予めご了承ください。



随筆・
見聞録

二郎というカタルシス

中小企業診断士 伊藤 圭介

これを執筆しているのは、11月中旬～下旬ごろである。11月にもなると、まだ一部季節外れの暖かさはあるものの、ようやく涼しさ、寒さのようなものが戻ってきてつつあり、外食においても暖かいものを食べたいという気が起きてくる。

そんな中、市内を徘徊したり、マップで検索していたりすると、広島市内及び県内においても、いわゆる「二郎系」、「二郎インスパイア系」と呼ばれる店が多くなっている印象がある。

その「二郎」とは一体何か。

すでにご存じの方は読み飛ばしていただいてもかまわないが、「二郎」とは、「ラーメン二郎」のことである。本店は東京都の港区三田にあり、慶應義塾大学三田キャンパスのすぐ横にある。首都圏を中心に多くの店舗が展開されている。

筆者もまた、二郎本店のリピーターだったこともあり、広島にある「二郎インスパイア系」を見かけるとチェックしたりしている（すぐに食べたりはしない。その理由は後述）。



二郎の具体的な構成は次のとおりである。

- ・スープは豚骨ベース、野菜はにんにくのみ。チャーシュー（二郎では「豚」と呼ぶ）もこの中で煮込む。生肉を煮込み始めた直後あたりのスープは、おそろしくぬるい。
- ・麺は太く、不揃い。強力粉使用のため、ゴワゴ

ワしている。およそ二郎の完食には相当の時間を要するが、その間も決して伸びない。

- ・トッピングは豚、野菜、にんにく、カラメ（タレの追加）、アブラ（背脂）。野菜はもやしとキャベツ。円錐状に積み上がり、二郎の立体感を構成。豚は、薄く切るスキルがないのかと思うほど分厚い。

- ・にんにくとは二郎のシンボルである。すりおろしではなく、刻みで大量投入される。

そうしてできたフォルムは次ページを参照されたい。写真はあくまで「二郎インスパイア系」の面々であり、ボリュームは少なめだが、イメージはこんな感じである。

対峙してまず驚くのは、その尋常ならざるフォルムとボリュームである。

初めて対峙した時のことはよく覚えている。

量が減らないのである。

まずは上部の野菜、もやし・キャベツの攻略から始めなければならない。これだけでも相当の労力である。野菜の攻略がようやく終わると、次は麺である。コシの強いゴワゴワ麺の咀嚼に顎が疲れる。しかし、いくら食べても量が減る気配がない。そこでユーザーは恐怖に苛まれる。遅発性の満腹中枢との戦いがやってくる。そのため食を急ぐ。麺を持ち上げる割り箸を支えている、人差し指と親指の間の部分が痛んでくるのである。その間にも分厚い肉を頬張り、更なる咀嚼を求められる。

こうした戦いを経て、無事に完食（※この場合の完食とはスープ完飲を含まない）すると、とても1回の食事を済ませたとは思えない、達成感、魂の浄化、すなわちカタルシスが訪れる。ただ

し、ナイーブな胃腸を持つ初心者にその後待ち受けるのは、下すかりバースかという二者択一である。それを乗り越えた先に待ち構えているのは、「あのダメージをもう1度」という被虐的なリピート欲求である。二郎には謎の中毒性がある。



「ただのラーメンではないか」と思っはいけない。世間的にはラーメンというカテゴリに分類されるかもしれないが、あれは「二郎という食べ物」であり、ラーメンは似て非なるモノである（あくまで個人の意見である）。そもそも二郎を食べるときとラーメンを食べるときでは気分が違う、意気込みが違う、覚悟が違う。「ラーメン食べたいな。二郎行こっかな。」ではないのである。冒頭に「見かけてもすぐ食べたりはしない」という旨の言及があったと思うが、店を見かけた日が二郎を食べる気分ではないときは行かないのである。

さてここまで二郎の魅力を滔々と語ってきたが、最後に診断士らしく、企業経営の観点から二郎を考察してみると、次の3つの特徴が浮かんでくる。

①二郎とはイノベーションである

二郎とはこれまでのラーメンにはないコンセプトが詰まっている。そしてそれは、ひとえに店主のプロダクト・アウトによるものであり、決してマーケット・インによるものではない。二郎が生まれる前のラーメン（プレ二郎）の時代において、ラーメンファンに対し、どのよう

なラーメンが食べたいか、自分にとっての理想のラーメンは何かをモニタリングしても、決して二郎のようなイメージのものは生まれないのである。

②二郎にはロイヤリティがある

二郎を愛する者を「ジロリアン」という。ただしどの程度二郎への愛情があるかといった明確な基準はなく、「二郎が好き」から「二郎とは人生である」まであらゆる愛情の深さを包摂している。

しかしこれは二郎独特なものではなく、同類では「天下一品」や「蒙古タンメン中本」にも同様の信者という者はいる。

③二郎とはコト消費である

本来、二郎とは食事である。料理である。食材という有機物にこれまた調味料という有機物を適量かつ適時に調合し、火や熱といったエネルギーを用いて加工しているのだから、立派な「モノ」である。しかし、二郎とはコト消費である。

1回の食事をするために行くところではなく、「二郎を喰らう」という行為そのものを楽しみに行くのである。圧倒的なボリュームや禍々しきフォルムと対峙し、取り崩しながら少しずつ消化していき、最後に丼の中身を空にするという行為を楽しむのである。

そういった二郎＝困難な壁を克服することで、人は一種のカタルシスを得る。そのカタルシスが薄れると再現したくなるから、二郎には中毒性があり、リピーターが続出するのである。

もっとも、カタルシスを得た直後に、過剰な糖質及び脂質の過剰摂取（ただし、いくばくかのたんぱく質も摂取）という事実直面し、大いなる後悔が襲ってくるのは言うまでもない。





書評



多様性の科学

画一的で凋落する組織、
複数の視点で問題を解決する組織

著者：マシュー・サイド
出版社：ディスカヴァー・トゥエン
ティワン
発行日：2021/6/25
価格：2,530円（税込）



中小企業診断士
藤掛 真行

「多くの場合、集団の失敗は、会議をしたにもかかわらずではなく、
会議をしたからこそ起こっている」との一文は、
多様性を欠く集団に潜在する危険を端的に表している

著者による2016年の著作「失敗の科学」の充実した内容と読み易さに感銘を受けた経験から、迷うことなく本書を手にとった。

組織や人に関して、その重要性が当然の前提であるかのように論じられている感のある「多様性」だが、なぜ組織にとって多様性が必要であるのかについて初めて理解できたように思う。

人や組織は失敗から学ぶことが出来るが、無意識に従っている自分なりの論理に気付くことがなければ、潜在している問題点について考えること自体あり得ないだろう。

著者は、「危ないのは、自分でそれに気付いてさえいない人間だ」とイギリスのコメディアンという言葉を用いている。

視点が多様化すればするほど個々人の盲点を補い合うことができ、見付けられる解決策の幅は広がる。著者は、組織に必要なのは、考え方や着眼点異なる人々が集まることによって生まれる「認知的多様性」と主張する。そして、人種や性別、年齢などの多様性を「人口統計学的多様性」として区別し、人口統計学的多様性が高くとも認知的多様性が高まるわけではないと指摘する。日本における多様性に対する取り組みが人口統計学的多様性の達成にとどまっているならば、本来目指すべき目的に対して不十分と

言わざるを得ないことになるだろう。

認知的多様性の重要性については、図を活用して明快に説明されている。優秀な人間であっても、大きく複雑な問題に対しては全体に目が行き届くわけではない。また、優秀な人間の集まりであっても、考え方が似通っている限り、見えない部分（盲点）も共通しがちである。しかも、お互いが同調して考え方を強め合った結果、間違った判断に自信を持ち、確信を更に強固にしてしまう。「多くの場合、集団の失敗は、会議をしたにもかかわらずではなく、会議をしたからこそ起こっている」との一文は、多様性を欠く集団に潜在する危険を端的に表している。

現状に疑問を持たなくとも、組織は問題なく運営されているかもしれない。しかし、前例踏襲や現状維持が通用しない変化に対応できるだろうか。認知的多様性の実現は集合知を活用することと同義であり、イノベーションに不可欠な人的資産であると著者は強調している。

認知的多様性がヒエラルキーにより抑圧されることには特に注意を要する。「支配的な人間」がリーダーになった場合、集団の視点や意見はリーダーに無条件に賛同するようになり、参加者の意見は埋没してしまう。その結果、集団の認知力はリーダー単独の認知力と変わらなくなっ

てしまう。著者の言う「クローン」の集団である。組織心理学、心理的安全性に関する研究とも共通している内容である。また、集団のなかでの意識は無意識のバイアスによっても影響を受ける。組織が多様性を活かすためには主体的な取り組みと工夫が必要であることを自覚する必要があ

るだろう。本書に紹介されている企業の取り組み事例や「尊敬型リーダー」は興味深い。

中小企業が人員構成を大きく変えることは簡単なことではない。中小企業診断士の役割の重要性は、多様な着眼点や考え方を示す点にこそあるのかもしれないと改めて考えさせられた。



広報委員会（診断ひろしま編集部） からのお願い

診断士コミュニティ 「随筆・見聞録」「書評」 コーナー執筆者募集中！



「随筆・見聞録」「書評」コーナーは、長らく企業内診断士診断能力向上研究会（企業内診断士の会）の先生方のご協力のもと、連載を続けております。

改めて深くお礼申し上げます。

ご講読の先生方も、診断士として思うこと、日常の中で感じること、これまでの経験談（成功・失敗談）、おすすめの書籍等がありましたら、ぜひ投稿ください。ご連絡お待ちしております！



「おすすめのお店・企業紹介」 掲載企業（執筆者）募集中！

支援先や知り合いのお店・企業を、診断ひろしまで紹介しませんか？経営のポイント、独自性、課題や改善点、診断士がどのように関わっているか等についてぜひご紹介ください。紹介希望の方は事務局までご連絡ください。

ご連絡先

広島県中小企業診断協会
E-mail : jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp



診断士リレー訪問記



ふじかわ ひろし
中小企業診断士 藤川 裕志



ますの みのる
中小企業診断士 益野 実



今回は「カーブを科学する研究会」にて、いつも大変お世話になっている益野 実さんをご紹介します。グループ研究会の会合で、お話をして別事業本部ですが 同じ会社で働き、入社時期も近かったことがわかりました。

現在のお仕事のことから、診断士活動の取組み、来期カーブの展望、今後の活動と色々お伺いしました。



福山市に在住し、大手電機メーカーに勤務しています。藤川先生とは実は同じ会社だったということ「カーブを科学する研究会」に入会してお会いしたときに初めて知りました。会社では事業本部が異なっていたため社内では一度もお会いすることはなかったのですが、互いにエンジニアながら中小企業診断士になり、しかも大好きなカーブが共通点で、これもご縁と思っています。

Q1：今、どのようなお仕事をされていますか？

本業は大手電機メーカーで産業用電気機器の開発設計マネジメントに従事しています。社内では中小企業診断士の資格を生かせる活動はほとんどなく、副業として他の士業の方からご紹介していただく中小企業の経営支援や、福山市中央図書館で開催されるビジネス相談会の相談員をしています。

Q2：診断士を目指そうと思ったきっかけは何ですか？

製品開発設計の技術畑で仕事をして来ましたが、本社で関係会社の技術・品質改善支援や業界団体で省エネ関係の規格策定などに従事した後、東日本大震災後に福山に戻ってからは、事業計画策定・予実管理、開発戦略策定・技術管理、品質保証・監査、環境管理、安全衛生管理、輸出管理、知的財産管理、人財管理（技術者採用・教育）など工場運営の一端に携わっていました。いわゆる番頭的役割で小さな雑務まで業務は幅広く、超多忙でも裁量もあり面白かったのですが、2年目以降は年中行事のように同じことの繰り返し

返しでワクワク感がなくなってきました。技術畑を離れて事務畑で生きていくには専門能力もなく、このままでは何も残らない。悶々としていた年の暮れにふらっと立ち寄った書店のいつもは行くことのない書棚で「中小企業診断士」の本に出会い、今やっていることにつながっていると直感して受験を決意しました。この出会いがなければ中小企業診断士になっていなかったかもしれません。今思えば不思議な縁です。余談ですが、新しい世界に巡り合えるのもリアルな書店の魅力の一つです。

Q3：ご自身の強みや活かしていこうと思うことは何ですか？

企業経営のさまざまな経験が生かせることでしょうか。エンジニアとして培った論理的な思考が得意で、物事を俯瞰しながら問題の本質を追求することが苦になりません。視力は良くありませんが、鳥や虫や魚やコウモリの目で物事を見ることを心掛けています。一方で現場が大好きで泥臭いことも粘り強くやれます。ここでは言えない数多くの修羅場を経験してきましたので、ピンチになるとドキドキしながらも乗り

越えた先の未来を想像してウキウキします。あきらめの悪さとしつこさかもしれませんが。

技術士の資格もあり、専門は電気電子工学と経営工学です。経営工学は主として生産・物流システムや品質管理を対象とする技術で、企業の経営問題を数理的に分析・解決することにも適用されます。一言で言えば「ヒト・モノ・カネ・情報の流れをよくする技術」です。中小企業診断士とも親和性が高いです。中小企業診断士×技術士で多面的な見方や思考ができることです。

Q4: 複数の研究会に所属されているとお伺いしました。所属されている研究会のご紹介と研究会活動で感じたことや得たことがあれば教えてください。

中小企業診断士登録してすぐに入会したのが「企業内診断士の会」です。会社外の活動ができないためにネットワークづくりが目的でした。正式名は「企業内診断士診断能力向上研究会」でその中のビジネス書班とデータサイエンス班に所属しています。ビジネス書班では中小企業診断士の参考になるビジネス書を紹介しています（診断ひろしま 88 号にも投稿）。

次に入会したのが「知的資産経営研究会」です。企業の見えざる資産・持ち味を活かした「知的資産経営」について研究・実践する研究会で、大阪や愛知、東北など全国に研究会があり、交流もしています。月例の勉強会（知的集会）の他にセミナー参加や企業支援もさせていただいています。今年は今研究会が主催で知的資産経営サミット（全国大会）を開催する予定です。

3つ目が「カープを科学する研究会」です。築城 400 年記念の福山城（別名コウモリ城、診断ひろしま 87 号にも投稿）での知的資産経営研究会とカープを科学する研究会合同の陣定（酒まつり）に参加した際に、誘われたのがきっかけです。ただカープファンだからと入会したのですが、昨年のグループ研究発表会でカープを科学する研究会と知的資産経営研究会のコラボで発表（一部のパート）させていただきました。

どの研究会も多くの刺激を受けて勉強になっています。

Q5: 「カープを科学する研究会」に所属されていますが、2025 年度のカープにはどのようなことを期待されますか？

昨年は 9 月初めには首位だったのが、月間 20 敗で B クラスに転落してしまいました。その 20 敗目の試合も現地で目撃しました。打つ、走る、守る。それがバラバラだったと思います。開幕早々に助っ人の離脱で「打つ」が弱くなり、チーム本塁打数は大谷選手一人に及ばず、「走る」盗塁は大谷選手一人よりわずかに多い程度で、エラーは少なかったものの最後まで「守る」ことができませんでした。原因はいろいろ言われていますが、カープ球団がしっかり分析と対策してくれるでしょう。無いものは仕方がないので有るもので戦うしかありません。中小企業であるカープ球団の弱者の戦略です。選手がそれぞれ持ち味を最大限に生かして活躍できれば、21 世紀になって日本一になっていない唯一の球団というありがたい称号を返上してくれるはずです。優勝記念 V10 のマンホールも設置されるのを楽しみにしています。

Q6: 今後の活動のビジョンや方向性、夢など思い描かれていることを教えてください。

ずっとドラマに出るような「企業戦士」「猛烈エンジニア」でした。自分ではそうは思っていなかったのですが、ただただお客様から「これいいね」「助かったよ」という言葉をエネルギーチャージに「24 時間働けますか」の世界でした。製品やシステムそのものではなく「顧客価値」を開発するという信念に支えられていました。

これからは、楽でなくても楽しくやりたいと思います。お客様が「やらないこと」×「できないこと」×「困っていること」を「中小企業診断士」×「技術士」の二刀流で、ワクワクしながら、頭と体が動く限りは生涯現役で、でも老害にはならない程度に、イキイキ活動したいと思っています。

“現場は宝の山” “現場の問題は現場で解決” をモットーに、お客様の“宝”の掘り起こしと磨き上げをサポートしていきます。

みんなで地元応援！



おすすめのお店・企業紹介 ～支援の現場より～ vol.6

広島市中区／カバン企画製造販売

株式会社 片岡商店

中小企業診断士 土井 誠

「広島の子供に3年間シゴかれても壊れない!!」 スクールバッグが持つ“耐久性”を本質的な価値に 次々とヒット商品を生み出す片岡父子の挑戦

みなさん、「スクバ（スクールバッグ）」ってどんなイメージをお持ちですか？突然、そんなことを聞かれても…ですよね。今回は、広島市内の中学校でスクバのシェアおよそ3割を誇る、明治30年（1897年）創業・株式会社片岡商店をご紹介します。まるで、中小企業診断士第2次試験（筆記試験）の事例Ⅰ（組織・人事）、事例Ⅱ（マーケティング・流通）のように、中小企業が抱える課題とそれを乗り越えるためのヒントが詰まっています。

片岡商店は、四大鞆産地の一つである豊岡（兵庫県）にルーツを持ち、今から100年以上前に広島に進出。当初は軍港・広島で兵隊の荷物入れである柳行李鞆の製造販売を行なっていました。1980年頃に現代表の片岡 功さんにより合成皮革製通学鞆を中心に事業を展開。当時は中学校生徒数も約600万人と市場も大きく、着実に事業基盤を整えていました。しかし、2010年代以降は、生徒数は30年前のおよそ半分、長引く不況で以前のような価格では売れず、取り巻く経営環境はとてつもないものとなりました。

そんな状況下で、家業に戻ってきたのがフリーランスのウェブエンジニアをしていた長男の勸さんでした。しかし、30代の後継ぎがやってきただけで簡単に事態が好転するわけではありません。はじめの2年は取引先の減少、価格交

渉の決裂など厳しい状況が続きました。また、役員報酬は月額5万円と家族を東京に残してやってきた勸さんは家業だけで食べていくことができず、フリーランス時代の仕事も続けながらの苦しい状況でした。「100年以上続けてきた看板をやすやすと下ろすわけにはいかない。やれるだけのことはやってみよう」と勸さんは当時の心境を振り返ります。

諦めずに動き続ける中、勸さんは「アトツギピッチ～家業後継者限定の新規事業ピッチコンテスト～」に登壇します。審査員から「スクールバッグの価値は何か？」と問われ、頭が真っ白になるなかで「広島の子供に3年間シゴかれても壊れない耐久性があります！」と、自身も中学生の頃にカツアゲされた経験が潜在意識として蘇り、咄嗟に出てきた言葉でした。そこで予期せず突破口となる「地球で一番頑丈なバッグ」という堅牢性に着目したコンセプトを発見します。



そうすると、どんどんアイデアが湧きあがります。「頑丈なスクールバッグの特性を他市場に解放できないか？」と自問し、アンゾフの成長マトリクスに照らし合わせて新市場・新商品について試行錯誤を重ねます。重たい書類を抱えて外回りの営業をする大人用A4サブバッグとして、アツギピッチでも紹介していた「さよなら紙袋™」に「広島ヤンキーに3年間しごかれても壊れない」というキャッチコピーが加わり、地道な営業活動も功を奏して大手小売店や直販ECで大ヒット。その後は、アニメグッズへの採用、ビームス JAPAN 宮島でコラボ商品の開発へとつながります。

「本質的な価値を研ぎ澄ませて、見せ方を工夫すれば、大量生産・大量消費の薄利多売型から脱却できる」と勸さんは自信を持って語ります。2年前からは、広島が日本酒の名産地で、米どころであること、お米を運ぶ米袋の耐久性の高さに着目して「米袋バッグ」の開発に取り組んでいます。それも印刷ロスで廃棄される米袋をバッグに再生させるというSDGsの観点を織り込んだユニークな商品です。昨年7月には羽田空港の蔦屋書店でテスト販売が行われ、インバウンド観光客に人気を博しました。また、時折、気分転換で訪れていた錦帯橋で、趣味の水切りに使うため、試作品である石を詰めるバッグを持参していたところ、偶然にも水切りの日本チャンピオンに出会います。話はトントン拍子に進み、「米袋の水切り石バッグ」を開発。昨年10月には石10kgを入れても壊れない耐久性が評価され、ドイツ・ベルリン開催の第1回国際水切りトーナメント大会の入賞者商品に採用されました。なんと、ご自身も12位と好成績を残しています。

URL : kataoka-shouten.co.jp
 EC サイト : shop.kataoka-shouten.co.jp
 インスタグラム : [@kataoka_shouten](https://www.instagram.com/kataoka_shouten)
 YouTube : [@kataoka-shouten](https://www.youtube.com/@kataoka-shouten)



「耐久性・堅牢性」を基軸としたバッグの多展開は、片岡商店の認知度および企業ブランド価値を向上させ、主業であるスクバ事業にも好影響を与え始めているといいます。実直に事業を守り継いできた父・功さん、家業の本質的価値からユニークな展開を行って本業を再生させようと奮闘する子・勸さん。二人はいつも喧嘩をしているかのように、漫才のような掛け合いをしながら真面目に事業に取り組んでいます。店舗も原爆ドームから徒歩10分ほどと好立地にありますので、ぜひ店頭を訪れて、商品と片岡父子のファンになっていただきたいです。



会社名	株式会社 片岡商店
代表者	片岡 功
業種	カバン企画製造販売
創業	1897年(1961年設立)
所在地	広島市中区十日市町1-3-12



New Member

新 入 会 員 紹 介

(50音順)

紹介
5名

正 会 員

鬼村 美恵子 (おにむら みえこ)



皆様、はじめまして。この度、広島県中小企業診断協会に入会しました鬼村 美恵子と申します。

広島市で生まれ育ち、金融機関などの勤務経験を経て、令和元年より(公財)ひろしま産業振興機構に勤務し、主に伴走支援業務に携わっております。

転職するまでは中小企業との接点がほとんどありませんでしたが、業務を通じて経営者の方々からお悩みを聞くうちに、あらためて中小企業を取り巻く環境の厳しさを強く実感すると

ともに、自分自身が成長することで中小企業の皆様のお役に立ちたいと考えるようになりました。そのためには、経営に関する知見を深めることと、実践的なスキルを養い業務の幅を広げる必要があると考え、中小企業診断士を目指すようになりました。

今後は、中小企業診断士として成長できるよう自己研鑽に努め、皆様のお力を借りながら、県内企業様の経営課題の解決と発展のお手伝いをしたいと考えております。診断協会の活動にも参加させていただきますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

正 会 員

土井 誠 (どい まこと)



はじめまして。土井 誠と申します。令和5年8月に中小企業診断士登録をし、翌年8月に広島県中小企業診断協会に入会しました。

出身は大阪府四條畷市で、父は左官、祖父(母方)は大工と職人に囲まれて育ちました。就職後は、東京を中心に札幌、名古屋など転勤を重ね、5年前に妻の地元に移住した広島市民です。

大学では広告論・ブランド論を専攻しましたが、新卒では不況の最中、畑違いの不動産コンサルティング会社に就職しました。5年半勤めた後、

私自身が父親となったタイミングで「日本の手しごとを世界へ」との想いをもって、設立2年目の地方創生系のベンチャー企業に転職しました。昨年11月には、広島の伝統的なものづくりに触れる「Peace Piece～広島復興の礎を築いた平和のかけらたちに出会うものづくりの祭典～(第一回)」を開催することができました。

資格取得は、所属会社がコロナ禍の1年前から主業を旅行業に転換していた中、支援する事業者に対して、私の力が全く役に立たないという無力感を感じたからです。未経験の財務・会計などの知識も含めて視野を広げなければ、経営者が困っている本音、見ている景色は見えない。

それでは、私が望む支援の形は不十分だと考えました。

今後は、本年2月に独立し、広島の伝統的なものづくり産業の支援を推進します。その一貫で、約1ヶ月間、パリを中心にフランスに滞在し、販路開拓に取り組みます。

まだ、行く末は不安ばかりですが、尊敬する中小企業診断士の先生との出会いにも恵まれ、令和5年8月に広報委員会の委員に就任いたしました。これまでの経験を活かして、中小企業診断士の価値を伝えられるよう尽力します。

正会員 中原 良成（なかはら よしなり）



皆様、はじめまして。令和6年6月に診断士登録し、9月より広島県中小企業診断士協会へ入会させていただきました、中原 良成と申します。

出身は広島でそのまま広島の大学に進み、就職もそして特にこだわりはなかったのですが広島県内の企業にご縁があって就職しました。結局県外には出ない人生を歩んでおり、広島への強い縁を感じています。

今の趣味は社会人になってから始めた三味線（全然弾けません）と、やせるために始めた筋力トレーニングです。もし同じ趣味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけくだ

さい。

中小企業診断士を目指したきっかけは、現職として日用品の製品開発を9年間続けていたが、いかに売れる製品を考案するか、いかに経営陣に提案を行うか、といった点を会社の中だけで学ぶことが難しく感じたからです。そのため、個人的に経営、マーケティング等の幅広い知識をつけるにはどうした良いか、ということを考えていろいろと調べた結果、中小企業診断士資格に辿り着きました。

今後は現職を継続しつつ診断士としてのスキルアップを行い、広島の地域活性化に微力ながら貢献していきたいと考えています。今後とも何卒よろしく願いいたします。

正会員 中村 清悟（なかむら せいご）



はじめまして、中村 清悟と申します。山口県出身で、東京の大学卒業後、金融機関で東京・島根・上海等で勤務したあと、独立して地元山口県で中国関連の会社を起業、その会社

が尖閣諸島問題の影響などで倒産後、上場企業の北京事務所の立ち上げに責任者として参画などし、再度山口にリターンし中小企業診断士

として8年活動しております。

中小企業診断士として活動しようと思ったのは、10数年前に山口県で中国関連の企業を営んでいた際、診断士の大先輩に経営支援を受けるなどお世話になったからです。様々な環境で多様なビジネスをしている個々中小企業への支援は好奇心も満たされ、社会にも有益でやり甲斐がありそうだな、と思い資格取得に至りました。とても大変な仕事ですが、日々やり甲斐を持つ

て活動できています。

ネット集客などマーケティングが強みなので、独立後数年はマーケティング支援などを中心に行ってきましたが、ここ数年は補助金申請支援を専ら行っています。とくに製造業の生産体制構築などの支援が多く、先端設備導入などで革新的体制を共に構築し、企業の変革に関わることに面白さを感じています。現在では製造業関連の顧客がほとんどで広島のお客様も多いため、今春に広島にも拠点を構えました。広島で単身赴任する形で、家族のいる山口と半々で過ごしています。

スポーツ観戦や旅行が趣味なので広島はとて

も刺激的です。今シーズンはカープ、サンフレッチェの応援に月3くらいで行きました。旅行面では広島の研究も兼ねて多々名所をまわったのですが、ニッチなスポットなどはまだ開拓できていない気がするので面白いスポットなどがあればご教示ください。

仕事面では最近では特に生成AIの活用やGX支援などの研鑽もしています。が、如何せん世の中の変化スピートが凄まじいのでとくに先生方と情報共有等をさせていただければと望んでおりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

正会員

三浦 英俊 (みうら ひでとし)



はじめまして、三浦 英俊と申します。私は令和6年3月に関西学院大学の中小企業診断士養成課程を修了し、同年6月に中小企業診断士として登録、8月には広島県中小企業診断協会に入会

いたしました。

出身は山口県柳井市ですが、学生時代は福岡で過ごし、社会人になってからは東京、パラオ、福岡、大阪、広島とさまざまな土地で働いてまいりました。現在は広島の自動車メーカーに勤務しておりますが、これまでに商社、半導体、家電といった異なる業界での経験を積んでいます。社会人としてのキャリアは一貫して財務・経理に携わりながらも、現職では原価企画、マーケティング、コネクティッドサービスの導入といった多岐にわたる業務にも取り組んでまいりました。

中小企業診断士を目指した原点は、20年以上前に南国パラオで経験した「無力感」にあります。当時、商社勤務でパラオのマグロ漁業基地のCFOを務めていましたが、拠点閉鎖に伴い、200人の多国籍の従業員を解雇せざるを得ない苦い経験が今でも心に刻まれています。この経験を経て「次は誰かを守る存在になりたい」との思いから、中小企業診断士を志し、地力を養うため養成課程に進みました。

現在は所属する本部で販売会社への経営支援業務に従事しながら、関係会社や取引先企業への支援活動にも力を注いでまいります。将来的には独立診断士として中小企業の社長の「伴走者」となり、一人でも多くの経営者のお力になりたいという夢を持っています。

50歳を過ぎた今でも成長を続ける姿勢を忘れず、努力を重ねていきたいと考えております。諸先生方のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

リスクマネジメント研究会

代表 三村 雅彦

BCP（事業継続計画）を広めつつ、
自分の得意分野を磨きませんか

1. リスクへの対処方法

サイバー攻撃、ハザードマップ、南海トラフ巨大地震・・・世の中はリスクに満ち溢れている。「3日分の食料は備蓄している」、「海から遠い高台に住んでいる」、「パソコンは使わない（いや、それは無理!）」など、みなさん、それぞれの対策を行っている（はず）。

一般にリスクへの対処方法は4つ。

- ① 回避（例：台風が来ない場所に移住）
- ② 軽減（例：頑丈な家に建て替える）
- ③ 移転（例：保険に加入する）
- ④ 保有（例：リスクはゼロにはならない）



2. 私たちのミッション

研究会では、広島県の企業向けにリスクへの対処方法を伝えるセミナーを企画してきた。研究会メンバーが講演者となるので、自分の知識向上にもつながるとともに、行政機関や企業との接点にもなる。

■24年2月のセミナー内容

テーマ：サイバーリスク対策

- ・「サイバー犯罪の現状と対策」
～広島県警察本部
- ・「サイバーリスクに関する法的責任」
～西日本法律事務所
など

■24年8月のセミナー内容

テーマ：自然災害のリスク対策

- ・「自然災害リスクに備える損害保険」
～東京海上ディーアール株式会社
- ・「自然災害リスクに役立つ補助金ほか」
～中小企業診断士
など

3. メンバー

診断士だけでなく、中国経済産業局や県の商工労働局、中小機構、弁護士、さらには損害保険業界など。意見交換していても、みんな観点が違うので、面白い！ぜひ一緒にしませんか。

2024年2月開催の
セミナーの様子



海外展開支援研究会

代表 平見 尚隆

日本の伝統工芸産業の国際化に向けて

本研究会では中小企業の海外展開をどのような観点から支援していくかというテーマを中心に掲げ、そのために必要な情報や、知見を身につけ、研究会内で共有化することを目的に活動を続けている。

今年、正月に起きた能登半島地震で多大な被害を受けた石川県輪島市の輪島塗の状況を目の当たりにし、日本の伝統工芸技術の伝承の大切さに改めて気づかされた。云うまでもなく、このような伝統工芸はほとんど中小零細企業が担っている。少子高齢社会で、かつ生活スタイルが変わってきている日本の現状において、存続が危ぶまれている。このような産業は一度火が消えてしまうと、復活は難しいと言われている。

経済産業省はこの伝承を確実なものにするため、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律（伝産法）」を昭和49年に制定している。その枠組みの中で経済産業大臣は対象となる工芸品の定義として以下の5項目を指定している。

- ① 主として日常生活の用に供されるものであること。
- ② その製造過程の主要部分が手工的であること。
- ③ 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
- ④ 伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるものであること。
- ⑤ 一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているものであること。



広島大学「きてみんさいラボ」での漆器産業に関する討議風景

現在では全国で241品目（2024年1月時点）がこの法律の対象として指定されている。広島地区においては、熊野筆、川尻筆、福山琴、宮島細工、広島仏壇が指定されている。

今年度は、熊野筆、川尻筆を含む日本の筆産業や輪島塗などの北陸の漆器産業や代表が勤務する香川県の香川漆器などの情報・知見をメンバー間で共有化し、今後日本の伝統産業が取るべき戦略などを議論した。様々な意見が出され、現在ではメンバーの関係先を含め具体的な支援に結び付けられないかを検討している。なお、これらの活動成果については、今年度の研究活動成果発表会にて発表し、県協会内のメンバーや地域社会との連携強化を図った。

本研究会は、原則毎月一回集合し、対面での討議を実施している（オンラインでの実施ケースも有り）。写真はメンバーの計らいで広島駅の広島大学「きてみんさいラボ」を貸し切って漆器産業に関する討議を行った際の様子である。

ISO研究会

代表 栗山 琢次

研究会では、ISOの認証取得を目指す企業、認証取得したが経営業績に有効に機能していない企業に対するレベルアップ支援、及び経営改善支援への適用を目指して昨年度は、「プロセスアプローチ」、「リスク及び機会への取り組み」の手法について業種別にマニュアル作りとその運用事例の研究を進めた。

令和6年度活動計画

- ①メンバー構成は、会員5名、オブザーバー参加1名で活動頻度は、1回・2H/2ヶ月で土曜日、活動形態はリモート会議またはリアルとする。
- ②活動方法は、テーマを絞り日常業務や関連書籍の購読などで業種汎用的な研究とする。
- ③活動の背景としては、品質、環境、食品安全、情報セキュリティ、脱炭素化、事業再生強化（BCP）、健康経営、SDGsなどのリスク、機会に対する取り組みが中小企業へ波及しつつある。
- ④活動のテーマとしては、メンバーが業務上関わりを持つ、各種業界、分野のプロセス、システムの改善を進める際にリスク及び機会との関係を整理・理解し、対応する事が重要となってきた。関連する事例を取り上げてマネジメントへの影響（良・否）、個別の運用プロセスへの影響及びその重大性、発生の頻度・可能性などを研究、相互研鑽・深掘り共有財産とする。
- ⑤意図するアウトプットとしては、企業診断、改善に有効性のあるマニュアル作りとする。

令和6年度活動内容

- ①「ISO 9001 アンリミテッド 事業成功へのホップ・ステップ・ジャンプ」をテキストとして使用し引き続き、リスク及び機会への取り組み内容について掘り下げて討議を行う。現在支援中の企業に当てはめて、活用事例を作成し、取り組み事例の報告と質疑により理解を深める。
 - ・業種に分けて、競合優位性のある組織能力を洗い出し事例を集める。製造業、サービス業、食品加工業、土木・建築業など各業種の整理をしていく。

- ・競合優位性のある組織能力としての強み事例の収集として、製



造業で樹脂成形加工、製缶加工、サービス業でスポーツ用品店、トラック運送業、他を進めている。

- ②競合他社と差別化出来る組織能力の中核的な要素は何かを明確にする事でそれを脅かす外部要因を脅威、内部要因をリスクとして、戦略的な対応策づくりにつなげるマニュアルを目指している。

この件は現在取り組み中である。中小企業は管理能力、企画力等が弱いのが一般的で、どうやってこれらを身に付けていくか、案を練っていく。

- ・優位性のある組織能力の具体化のためのチェックリストを作り、現状を把握し易くする。
- ・事例として、トラック運送業について組織能力の強み、及びその核心とリスク及び機会への取り組みがある。

組織能力として a. 特殊車両を多く保有している事で長尺、重量物の鋼材、重量物の積み降ろし、運送面で技術的なノウハウを保有している。中核的な能力としては、車両の機能特性、クレーン操作、積み降ろし、作業方法、安全性の面で、ドライバーの高度な技術、経験が豊富である。

b. 運送計画変更への柔軟性があり、荷主からの変更、飛び込み、要請に機動的に対応できる動員力がある。中核的な能力としては、車両の特性、ドライバーの特性、地理・交通の特性、情報授受の特性を活用した輸送ニーズへの適合力である。配車計画、実績管理力の継承が人材育成の要である。

- ③活用の場面
 - 平素の業務へ適用してパフォーマンスのレベルアップを図る。
 - ・中小企業の経営診断、SWOT分析、戦略立案などの支援
 - ・事業計画策定、支援
 - ・ISO認証取得、審査、監査の支援

企業内診断士 診断能力向上研究会

研究会広報担当 伊垣 洋介

企業内診断士診断能力向上研究会（企業内診断士の会）では、

- ・ 企業内診断士の企業診断等にかかる能力の向上（研鑽）
- ・ 中小企業経営の改善・革新の支援（貢献）
- ・ 診断士の活動に必要なネットワーク作り（連携）



を目的として、活動に取り組んでいる。

会員数については、14年目を迎える今年度は、44名（10月末時点）となっている。

今年度の活動計画は、毎月第3土曜日に月例会合を開催し、会員それぞれがグループ研究、個人研究を行い、発表を行っていく。今年度はオンライン+リアルハイブリッド開催を数回実施する方針であり、対面による交流を増やしていく。また、会員からの紹介や協会本部の「企業内診断士におけるプロボノ活動の支援に向けた実証実験事業」等による実務診断にも積極的に取り組んでいく（協会本部の実証実験事業は3件実施済である）。

なお、7月と11月には、当研究会会員以外の方にもご参加いただけるリアル形式でのセミナー・交流会を実施している。



知的資産経営研究会

代表 森島 重樹

主な活動実績

◆知的集會開催（毎月第1火曜日開催の例会）

オンライン例会の中で知的資産経営に関する情報や他県の知的資産研究会の活動内容を共有している。

◆金融機関主催セミナーでの支援

広島県の金融機関が主催する経営デザインシート活用セミナー（全3回実施）で、当研究会から3名参加し、企業9社を支援した。



◆知的資産経営勉強会の開催

7月28日に大阪の知的資産経営研究会から講師を招いて、ヒアリング手法に関する勉強会を実施した。2班に分かれて、各々一人を企業役に決めた上でローカルベンチマークを行い、支援企業の知的資産を深掘りした。

11月9日には、経済産業省のウェブサイトに掲載されている企業の知的資産経営報告書からローカルベンチマークシートに落とし込む勉強会を行った。



◆グループ研究成果発表会での発表

9月7日のグループ研究成果発表会でカーブを科学する研究会とコラボで研究したカーブにおける知的資産分析結果を報告した。

今後の計画

◆ロカベンセミナー開催予定

広島県内の金融機関や商工会等からロカベンセミナーの要望があり、逐次実施する予定である。

研究会メンバー

森島 重樹・牧野 恵美子・綿谷 伸二
植田 昌子・益野 実・大形 光昭
高野 智也・大村 真司・林 晃司
城川 雅顕・高木 健次・棚田 勇作
原田 涼平・川口 明彦・田村 雅紀・中尾 太
（計16名 2024年10月現在）

資金繰り表研究会

代表 大村 貞之

会員 18 名です。（令和 6 年 11 月末現在）

これまでの主な活動内容

- ① 資金繰り表フォーマット（月次）の作成
- ② 資金繰り実績入力方法の確立
- ③ 資金繰り表マニュアルの作成
- ④ 日繰り表の作成
- ⑤ 実績入力問題の作成
- ⑥ YouTube 動画の作成
- ⑦ セミナーでの発表

今年度の活動内容

ここ数年は年に 1 回程度しか研究会を開催できていませんでしたが、令和 6 年 11 月 23 日に 1 年 4 か月ぶりの研究会を尾道にて開催しました。

久しぶりの研究会でしたが、オープンな雰囲気、おおいに盛り上がりました。

終了後は、牡蠣レストランにて、美味しい料理を楽しみました。思い出しても笑いが出てきません。素晴らしい時間でした。

当研究会の良い所

- 資金繰り表の知識を吸収できる。
- 資金繰り表関連のフォーマットを入手できる。
- 資金繰り表関連のセミナー資料を取得できる。
- 開催が少ないので、あまり負担にならない。
- 中小企業診断士の横のつながりができる。
- 生涯忘れられない楽しい思い出ができる。

資金繰り表研究会 ミーティング

日時：11月23日（土曜日）15時～17時
場所：しまなみ交流館・会議室2 ※現地集合
（2階にあります。広島銀行のATMがある方面から入ります。）

【内容】

1. 会員各自の近況報告
2. これまでの研究内容の共有（山口県研修会資料にて）
3. フォーマットの更新について（ヒアリングシート等）
4. ピボットテーブルを使った実績管理
5. 情報交換・今後の方向性

その他：・パソコンをご持参願います。
・3・4の資料は現地にて共有します。

(11/23 ミーティングレジメ)



11/23 研究会終了後の写真① in 尾道



11/23 研究会終了後の写真② in 尾道

総務委員会

総務委員長 田村 善光

令和6年度の総務委員会の活動報告については、以下の通りである。

(1) 総会

5月18日（土）にメルパルク広島でご来賓を招待して総会及び懇親会を実施した。総会では令和5年度の活動報告・予実報告、監事による令和5年度の監査報告、令和6年度の活動計画・予算等の議案が承認・可決された。

また、懇親会では14名のご来賓が参加され、新たに広島県協会に入会・転入された会員8名、特別会員2名の紹介が行われた。

(2) 理事会

第1回4月17日（水）ハイブリッド開催

令和6年度総会の式次第（案）、令和5年度の活動報告・予実報告（案）、令和6年度の活動計画・予算（案）、令和6年度役員候補、旅費規程の改定等の議題について討議し、総会提出内容を承認・可決した。

第2回8月23日（金）ハイブリッド開催

令和6年度各委員会活動報告、令和6年度収支報告等の議題について討議し、承認・可決された。

第3回11月20日（水）ハイブリッド開催

令和6年度各委員会活動報告、令和6年度収支報告、令和7年度総会議決権行使等の議題について討議し、承認・可決された。

第4回2月予定

計画通りに進捗している。

(3) 中国ブロック 連絡会議・勉強会



連絡会議：10月8日（火）
に広島県で実施。

本部及び中国5県診断士会との会議・交流会を実施した。当会からは5名参加した。

勉強会：1月予定

(4) 広島自由業団体連絡協議会

第1回7月23日（水）に広島県不動産鑑定士協会担当で、ANAクラウンプラザホテル広島で実施した。よろず相談会について広島司法書士会より説明があり提案内容を討議した。当会からは1名参加した。

第2回は2月4日（火）に開催予定。

(5) 無料よろず相談会

当番幹事団体の広島司法書士会のもとに、11月11日（月）に当会から3名参加で準備し、11月12日（火）に広島市役所講堂で当会から4名参加で実施した。相談者は1名来られた。

(6) 図書館相談会協力

4月から10月の間で、広島市立図書館で累計14名、福山市立図書館で累計10名の相談者に助言した。

広報委員会

広報委員長 古川 佐千夫

1. 委員会メンバー

令和6年度の広報委員会は、委員長に古川 佐千夫、副委員長に本庄 恭子、委員に青谷 智晃、伊垣 洋介、三本木 至宏、田村 雅紀、土井 誠、原 信之介の合計8名の体制で活動した。



2. 活動内容

広報委員会は、中小企業診断士の認知度向上および中小企業診断士の能力向上のために県協会が行う活動を支援することを目的とし、次の活動を行う。

(1) 協会広報誌「診断ひろしま」の発行

診断ひろしまでは、協会・各委員会・研究会の計画や活動の紹介、スキルアップメニュー（診断助言事例、実務従事報告等）や診断士コミュニティ（随筆見聞録、書籍出版紹介、診断士リレー訪問記、新入会員紹介、企業紹介）等を掲載する。本年度は、7月と1月（本号）の2回発行した。



(2) 広報活動の推進

協会の活動および取り組みについて、会員や各関係機関等に広く周知を図るため、その他広報活動を行う、具体的な活動内容については今後の委員会にて検討を行い決定していく。

試験委員会

試験委員長 木村 義洋

試験委員会は、後述する委員会メンバーが活動方針に基づき、広島地区で実施する中小企業診断士第一次試験、第二次試験（筆記・口述）の計画の立案、運營業務を協会事務局と協力しながら実施している。



1. 委員会メンバー

委員長	木村 義洋	委員	岩井屋 忠昭、植田 昌子、馬上 元彦、梅木 雄司、 内藤 憲、藤原 貴徳、牧野 恵美子、渡部 宗広
副委員長	松浦 由浩		

2. 活動方針

(1) 中小企業診断士試験受験者が試験会場で本来の実力を発揮できるようにするため、『安心・安全・快適な受験環境づくり』と『不正防止の徹底』に全力で取り組む

(2) 広島県中小企業診断協会が質の高い試験事業を継続して実施できるようにするため、『試験業務の改善』と『試験監督者・試験運営員の育成』に継続して取り組む

3. 令和6年度中小企業診断士試験日程

(1) 第一次試験	令和6年8月3日・4日（土・日）
(2) 第二次試験（筆記）	令和6年10月27日（日）
(3) 第二次試験（口述）	令和7年1月26日（日）

4. 活動内容

今年度も多くの協会会員の皆様に試験監督者・試験運営員としてご協力いただき、第一次試験および第二次試験（筆記）を無事に終えることができた。心より御礼申し上げます。

年2回（6月、9月）の試験委員会では、委員会メンバーの間で試験実施の注意事項の確認、皆様からいただいたご意見、ご感想の共有等を行っている。また、kintone（キントーン）を活用し、協会事務局や委員会メンバーの間で試験業務の報連相を行っている。

試験委員会では、中小企業診断士試験受験者のため、また、広島県中小企業診断協会のため、試験業務の確実な実施と更なる改善に取り組むこととしている。さらには、試験事業を通じて、広島県中小企業診断協会と会員とのつながりをより強くしていきたいと考えている。新入会員・協会との接点の少ない会員を含め、皆様には、広島地区で実施する中小企業診断士試験の運営に積極的かつ前向きなご協力をお願いしたい。

診断実務委員会

診断実務委員長 落野 洋一

診断実務委員会では、

- ① 中小企業診断士の登録要件である実務補習
 - ② 登録更新に必要な実務従事ポイント取得のための実務従事
- の二つの事業をおこなっている。今年度の活動報告については以下のとおりである。



◆令和6年度中小企業診断士 実務補習（夏季）

広島市と福山市にて7月（4班）・9月（3班）の各5日間で実施した。

◆令和6年度中小企業診断士 実務従事

10月と11月の計12日間、2班で実施した。

◆令和6年度中小企業診断士 実務補習（冬季）

今年度から新たに8日間コースが加わり、5日間コースは今後、こちらに移行されることとなっている。開催場所は広島市・福山市、5日間・8日間・15日間コースの合計7班、以下の予定で実施する。

第1回	令和7年2月21日（金）～3月3日（月）
第2回	令和7年3月7日（金）～3月17日（月）

以下3点について重点的に取り組んでいく。

- ① 感染症対策の徹底
- ② 実務補習実施中にトラブルが発生した場合の対策強化
- ③ 実務補習・実務従事の指導員登録者の増員・育成

更新研修委員会

更新研修委員長 金田 賢二

更新研修委員会は、中小企業診断士の更新要件のひとつである「新しい知識の補充に関する要件」となる研修を実施している。



8月31日 福山商工会議所

第1回は、8月31日（土）に福山市の福山商工会議所にて開催した。台風の影響で、講師の両方には急遽リモートでご登壇いただいた。

第1部は、中国経済産業局産業部中小企業課の西村 裕希総括係長にご登壇いただき、「新しい中小企業施策」についてご説明いただいた。最新の情報をお届けいただくため直前まで資料作成にお取り組みいただいた。

第2部と第3部は、ミライW0つなぐ経営研究所代表の魚路 剛司先生にご登壇いただき、「中小企業の事業承継支援」についてご講演いただいた。実務経験に基づく貴重なお話を拝聴できた。

第2回は、10月5日（土）にリモート環境で開催した。

第1部は中国経済産業局産業部中小企業課の石田 稔課長にご登壇いただき、「新しい中小企業施策」と題し、最新の企業支援施策について詳しくご説明いただいた。

第2部はミライズム合同会社代表社員の渡部 剛史先生にご登壇いただき、「中小企業のイノベーション活動支援」についてご講演いただき、実務経験に基づく貴重なお話を拝聴できた。

第3部も渡部 剛史先生にご登壇いただき、グループワークを交えてのご講義をいただいた。

第3回は、11月30日（土）に、広島県情報プラザ多目的ホールにて開催した。

第1部は中国経済産業局産業部中小企業課の西村 裕希総括係長に、「新しい中小企業施策について」と題してご講義をいただいた。

第2部と第3部は、「中小企業の伴走支援」について株式会社エフティーエス代表取締役寺岡 雅顕氏よりご講義いただいた。

受講者からは、いずれの講義も多くの事例が大変参考になったという声が聴かれた。

令和7年度も参加いただく皆様に、知見をお届けできる研修を開催する予定である。

会員研修委員会

会員研修委員長 上垣内 邦典

会員研修委員会は、協会員診断士のスキルアップを目的として、今年度計3回の会員研修を予定している。
本稿執筆時点で2回の会員研修を開催済みである。



第1回会員研修

第1回は8月24日（土）に、「コロナ禍と事業承継相談」と題する研修を広島県情報プラザ会議室で行った。

自らの勤務先である旅行会社の再生をきっかけに数多くの銀行で企業支援アドバイザーを務め、金融庁「業種別支援の着眼点」の原案作成に携わっておられる「異能の“企業再生請負人”」伊藤 貢作氏を講師としてお招きした。

研修には15名の会員にご参加いただき、企業再生支援における着眼点のダイジェスト説明ののち、伊藤講師が実際に支援された事例を基にディスカッションで支援の方向性を導き出すワークショップを行い、受講者4班による白熱した議論が交わされた。

第2回会員研修

第2回は、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授兼武蔵野大学ウェルビーイング学部長・教授であり、「幸福学」をキーワードとして多数の著書を上梓しておられる前野 隆司先生を講師にお招きし、Zoom形式での研修を11月14日（木）に開催した。

25名の会員のご参加のもと、「企業のパフォーマンスを上げる幸福経営学とは!？」をテーマに、社員の幸福度を向上することによる生産性や企業価値の向上についての概論、さらにその実践事例の紹介や、幸福度診断の手法について講演していただいた。

第3回会員研修

第3回は令和7年2月ごろに、千葉県中小企業診断士協会との共催としてZoom形式で行う予定である。

診断士業務への生成AI活用をテーマに、すでに活用をすすめておられる千葉県中小企業診断士協会の渡邊 奈月先生を講師にお招きし、千葉県協会からも参加者を募って、広島県・千葉県両協会会員同士の交流にも役立てていただくことを考えている。

スケジュール等確定次第、告知させていただくので、会員の皆様には奮ってご参加いただきたい。

グループ研究委員会

グループ研究委員長 岩田 潤一

協会のグループ研究会は、現在、13グループが、中小企業診断や支援等に係る専門的な技術・能力の向上を目指し、活発な活動を行っている。

今年度の活動のうち、各研究会の研究成果を発表する「研究活動成果発表会」について紹介する。



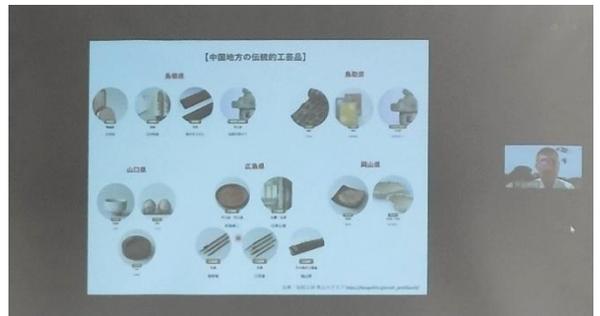
今年度の「研究活動成果発表会」は、9月7日（土）に広島県情報プラザ 2F 第一研修室において開催し、オンラインによる同時配信とした。今回初めて、終了後に聴講者も参加可能な懇親会（有料）を開催した。

「海外展開支援研究会：平見 尚隆先生（リモート）」、「カーブを科学する研究会：伊藤 圭介先生、綿谷 伸二先生、益野 実先生」、「建設業研究会：濱上 敬介先生」の3研究会による成果事例の発表を行った。

中国地方の各県中小企業診断協会等にもご案内させていただき、51名（うち、オンライン28名）に聴講いただいた。

アンケートからは、「実際の支援の具体的な参考となる」、「いろんな分野で新しい知識が得られた」などの意見があり、発表内容について、97%の方が、満足・やや満足と回答されていた。

本誌面をお借りし、経営診断に役立つ実践的な研究成果の発表をいただいた研究会の先生方、準備・運営にご協力いただいた会長、協会事務局、グループ研究委員のご尽力に改めて感謝申し上げます。



海外展開支援研究会：
平見 尚隆先生（リモート）



カーブを科学する研究会：伊藤 圭介先生



建設業研究会：濱上 敬介先生

令和 6 年度 年間主要行事日程

日 付	行 事
4 月 17 日 (水)	第 1 回理事会
5 月 18 日 (土)	令和 6 年度総会
7 月 5 日 (金) ~ 16 日 (火)	実務補習 (夏季 7 月コース)
8 月 3 日 (土) ・ 4 日 (日)	第 1 次試験
8 月 23 日 (金)	第 2 回理事会
8 月 24 日 (土)	第 1 回会員研修
8 月 31 日 (土)	第 1 回理論政策更新研修 (福山会場)
9 月 7 日 (土)	グループ研究会 研究成果発表会
9 月 13 日 (金) ~ 24 日 (火)	実務補習 (夏季 9 月コース)
10 月 5 日 (土)	第 2 回理論政策更新研修 (リモート開催)
10 月 27 日 (日)	第 2 次試験 (筆記)
10 月及び 11 月	実務従事 2 コース
11 月 14 日 (木)	第 2 回会員研修
11 月 20 日 (水)	第 3 回理事会
11 月 30 日 (土)	第 3 回理論政策更新研修 (広島会場)
1 月 26 日 (日)	第 2 次試験 (口述)
2 月 19 日 (水)	第 4 回理事会
2 月 21 日 (金) ~ 3 月 3 日 (月)	実務補習 (冬季 5 日間コース、8 日間コース、15 日間コース)
2 月頃 未定	第 3 回会員研修
3 月 7 日 (金) ~ 17 日 (月)	実務補習 (冬季 15 日間コース)
令和 7 年 6 月 7 日 (土)	令和 7 年度総会 (予定)

最新情報は広島県中小企業診断協会ホームページ「協会について>活動計画」でご確認ください。

事務局からのお知らせ

1. kintone (キントーン) ご利用のお願い

令和 5 年度から kintone を通じて理論政策更新研修の案内など会員向けの情報発信しております。

kintone から案内が届いていない方、使い方や ID、パスワードがご不明の方は事務局まで電話やメールでご連絡ください。

2. コンプライアンス研修受講のご案内（正会員の方へ）

正会員の方は本部マイページよりコンプライアンス研修を受講してください。受講の仕方が不明な方は、県協会ホームページのコンプライアンスページを参照されるか事務局までお問い合わせください。

中小企業診断士にはコンプライアンスの遵守が強く求められています。未受講の方は必ず受講してください。また事業受託の必須条件としております。

3. 専門家登録の案内および情報更新のお願い（正会員の方へ）

広島県中小企業診断協会では各支援機関より様々な中小企業支援事業を受託しております。受託した案件については、正会員の中で専門家登録をいただいている方に、随時依頼または公募を行っております。

まだ専門家登録をされていない方は是非登録していただき、大いに活躍して頂きますようお願いいたします。

また、すでに登録されている専門家の方は登録内容に変更のあった場合（経験年数の更新を含む）には、随時更新していただきますようお願いいたします。

登録手順につきましては、事務局（jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp）まで直接ご請求ください。

4. 本部（連合会）法人名称変更のお知らせ

役割と使命をより明確にし、中小企業診断士という専門家の団体の連合会であることをわかりやすく伝えるため、令和6年10月1日付で法人名を下記のとおり改称いたしました。

【新】

日本名 一般社団法人 日本中小企業診断士協会連合会（略称「日診連」）

英文名 Japan Federation of Certified Management Consultants' Associations
（略称「JF-CMCA」）

HP ドメイン <https://www.jf-cmca.jp/>

連合会事務所の所在地、部署名、電話番号は変更ありません。

研修受講証明書、試験合格証書に記載されている発行元法人の名称は、令和6年10月1日以降発行するものから変更になりました。

連合会総務部 電話番号：03-3563-0851

メール：news@jf-cmca.jp

広島県協会も連合会に合わせ令和7年度総会にて名称を変更予定です。ご協力よろしくお願ひします。

編集後記

新年を迎え、会員および関係機関の皆様におかれましては穏やかな日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。併せて、広報誌発行にあたりご協力下さった皆様から心よりお礼申し上げます。

新年号恒例の座談会では「カープの知的資産分析」を2研究会合同で実施された会員の方々に興味深いお話をお聞かせいただきました。今後の研究会活動において新たな可能性を感じさせられました。

また、表紙写真は説明の通り現在ではスマホでも当たり前になりつつあるAI技術を使って作成したものです。厳島神社の赤い鳥居に人工知能で創造した雪が降り積もっています。新たな年にそれぞれの願いを抱き多くの人々が向かう初詣をイメージしています。

神社と言えば伊勢神宮では20年に一度、9年の歳月をかけ33のお祭りと行事を重ねて行う式年遷宮が行われます。何故20年に一度なのか、木造建築は腐りやすく茅葺屋根の吹き替えの必要もありますが、技術伝承上の問題があると言われています。次の世代に匠の技を伝承するために20年は最大の年限だと考えられていたようです。またその材料も持続可能性が考えられ色々な場所で再利用されています。伊勢の森では使用される樹木も管理され、田畑もあり自給自足の生活が確立されています。自然環境の変化や人類の継承能力劣化に対する対応策が築き上げられていました。

天武天皇の時代に式年造替の制が定められ最初の造替が行われたのが690年です。現在のSDGsよりも精神的な深みを持ち、表面を繕っただけのものではないSDGsが万葉の時代にすでに日本には存在していました。

新たな知識を学び取り入れることも大切ですが、厳しい経営環境という嵐の中で救いを求めて叫び声をあげている中小企業経営者の傍らに駆け寄り、共に幾多の失敗と数少なくても珠のように輝く成功を重ねながら、「苦楽を共にする心と覚悟を持つことができる力」こそが我々中小企業診断士にとって必要不可欠の能力です。新たな年も地域経済復興の一助となれるよう力を尽くしましょう。

広報委員長 古川 佐千夫



一般社団法人広島県中小企業診断協会会報 第92号

発行：令和7年1月10日（年2回発行）

発行人：会長 井上 明雄 編集人：広報委員長 古川 佐千夫

会員数

244名

令和6年12月時点
正会員・準会員・特別会員
含む。休会員は含まない

記事やお知らせ募集中！お気軽にご連絡ください



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

Hiroshima Small and Medium Enterprise Management Consultant Association

〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ3階

TEL：(082) 569-7338 FAX：(082) 569-7336

E-mail: jsmecca34@sunny.ocn.ne.jp

www.hiro-smeca.jp

「診断ひろしま」の
バックナンバー公開中

